

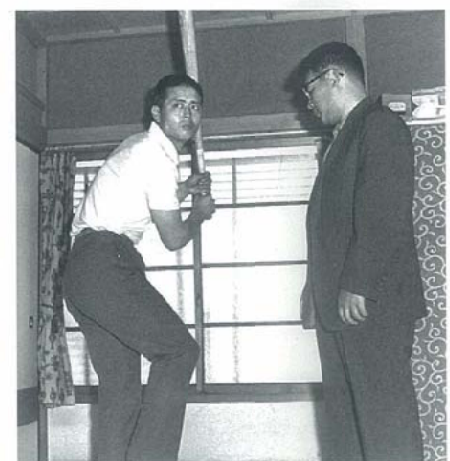
対談 師弟感奮興起物語

「世界の王」 はこうして つくられた

日本ティールボール協会副会長

荒川博 & 王貞治

福岡ソフトバンクホークス球団会長



二人三脚で取り組んだ一本足打法(写真=©「週刊ベースボール」)

荒川博氏二十四歳、王貞治氏十四歳——球界に燦然と輝く八百六十八本のホームラン世界記録は、この二人の師弟の出会いから始まった。いまや伝説となった「荒川道場」にて、両氏が二人三脚で行った特訓とはいかなるものだったのか？運命的な出会いから五十五年の時を経て、初めて実現した対談を本誌上にて紹介する。

おう・さだはる——昭和15年東京都生まれ。34年早稲田実業高等学校卒業後、読売ジャイアンツに入団。48、49年三冠王。52年通算本塁打756本の世界記録を達成し、初の国民栄誉賞を受賞。55年通算本塁打868本の世界記録を最後に現役生活を終える。59～63年読売巨人軍監督。平成7年福岡ダイエーホークス(現・福岡ソフトバンクホークス)監督就任。20年退任後、現職。

あらかわ・ひろし——昭和15年東京都生まれ。早稲田実業高等学校から早稲田大学商学部へ進学。28年毎日オリオンズ(現・千葉ロッテマリーンズ)入団、現役時代は左の巧打者として活躍する。36年引退後、翌年から45年まで読売ジャイアンツ打撃コーチ。王貞治、長嶋茂雄、広岡達朗、夏本喜八などに打撃指導を行ったことで知られる。49年ヤクルト監督就任。51年退任。平成11年日本ティールボール協会副会長。現在、荒川野球塾塾長などを務める。著書に「生まれ変わるバッティング」(新星出版社)がある。